

毒エサから睡眠薬へ

大阪府は七日までに、野犬駆除に二十年以上続け
てきた毒エサによる薬殺を中止、今月中旬から睡眠
薬を混ぜたエサを使つての捕獲に切り替える。毒エ
サに反対していた動物愛護団体は「一歩前進」と評
価している。

薬殺は、狂犬病予防法で
「狂犬のまん延防止など緊
急の必要性がある場合に認
めており、毒薬は、施行規
則で硝酸ストリキニーネの
使用を指示している。」

大阪府は通常首輪やオリ
で捕獲し、薬殺は「夜間し
か出せないなど捕獲が困
る。」

野犬捕獲

難な場合に限つてのみ使
用(食品衛生課)と説明。
最近の毒エサによる駆除数
は一九八七年に十一回百二
十八匹だったのが、昨年は
五回で二千九匹。今年は十
月末までに二回十五匹と減
っていた。

これに対し動物愛護家で
つくる「動物たちの会」(事
務局・東京、R・ヘロルド
代表者千人)の大阪のメン
バーが、府に「狂犬病のま
ん延の恐れがない場合の薬
殺は狂犬病予防法に違反す
る。野生動物が食べる恐れ
る。」

大阪府、今月中旬から「一歩前進」